

アポ取り電話で好印象を

① **ビジネス訪問**

暮らしのルールが浸透していた江戸時代。不意の訪問は「時泥棒」といって嫌われた。得意先などの訪問は約束を取るための電話から始まる。電話口で「こいつ感じが良いな」「会ってみたいものだ」などと思われたら、その訪問は三分の一くらい成功だ。普段から感じの良い電話の掛け方や話し方を勉強しておこう。

電話は顔が見えないので声に表情を載せて話そう。ラジオのアナウンサーはテレビのアナウンサーと違って表情豊かに、身ぶり手ぶりを交えて話している。その方が声に表情が出るからだという。電話の前でお辞儀をしている人を笑う人もいる。だが電話だからこそ表情や動作をつけて話すと声に気持ちがかもる。

良い声を出すコツは口角を上げて話すこと。ギターやバイオリンは弦だけでは良い音は出ない。空洞に響かせて良い音が出る。人間の声も声帯から出た声を口の奥、鼻の奥に響かせると一番良い声が出る。そのためには口角を上げて話すことがポイントなのだ。

アポの電話は表情豊かに口角を上げてニコニコ、ハキハキと相手を思いやっって話すようにしよう。

(マナーデザイナー)

岩下 宣子